

自主貢献

あいさつは あふれる笑顔の あいことば

横浜市立錦台中学校 学校だより

発行日 平成 27 年 12 月 2 日 (水)

発行者 学校長 枝 迫 大成

所在地 神奈川区西寺尾 3-10-1

電話 401-3644 FAX431-0244

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/nishikidai/>

「自分を振り返る 節目を大切に！」

副校長 栗田 智 則

早いもので、2015年のカレンダーもあと1枚になりました。年末年始は、すぐそこまで来ています。師走の12月、何となくせわしい反面、気持ちもウキウキとなってきます。

さて、正月の元旦（1月1日の朝）を迎えると、いつも感じるがあります。それは、元日の前日、つまり大晦日まで、町じゅうは活気にあふれ、人々はせわしなく歩き廻っている。ところが、一夜明けた元日の朝は、これが同じ町であったかと思われるほどの静けさで、心なしか、昇る太陽の光までもが、まったく新しい光のようにさえ感じられる。物理的に考えれば、昨日が終わって、今日が始まっただけに過ぎないのに、これはどうしたことだろう。結局、人間は、一定の時間の移り変わりの中に、自分たちの意志で区切りをつけ、その区切りによって、自分たちの生活にひとつの節をつくり、折目として生活を律していこうという知恵をいつの間にか生み出してきたのでしょうか。人生の節目を大切にするという考えです。

節目の大切さの話をする、例えとして「竹の強さ」が出されます。竹の太さは樹木の幹と比べると比較的細いにも関わらず、その引っ張り強度（両側からの引っ張りに耐える強さ）はどんな木よりも二、三倍強いといわれています。この強さの秘密を握る鍵は、竹の幹の中の節にあるということです。竹の幹は、早く成長するために、中がパイプのような空洞になっています。幹の太さと肉厚に応じて、横からの力で倒れたり押しつぶされたりしないように保持するのが節の役目です。背の高い竹に、節目があることで、強風による横からの力が当たってもその力に耐えるように、竹は折れにくく、しなやかなのだということです。人の人生も、時に浮き沈みがあるかもしれませんが、人生の途中の節目を大事にすることで、まっすぐ強くそしてしなやかな考えを身に付けられると思います。



学校の生活もこれと同じです。4月から翌年の3月まで、なんとなくだらだらとした日を過ごすのではなく、学期と学期の節目、休みに入る・休みが終わるという節目、また学年が変わるといった節目を設けて、そこで自分たちの生活をもう一度振り返り、新しい決意をもって次の節目を過ごそうという心構えをもたせてくれるようになっているのです。ですから、学期の始めなどには、個人としても、学級としても「今学期はこうしたいとか、今年はどうしよう」という目標をたて、学期の終わりには、その目標がうまく達成されたかどうかをよく反省し、それをもとにして、またよりよい生活を考えていくということが必要なのです。2015年という1年間の自分をじっくり振り返り、できなかったことを悔やむより、これからできること・できそうなことを発見して、新たな挑戦・取り組みを開始したいものです。